

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 4月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	2277101693
法人名	有限会社 ありずう
事業所名	グループホーム なの花
所在地 (電話番号)	浜松市中区早出町1200番地の12 (053-461-7715)
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成21年2月12日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 8 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	10.8 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋 造り	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷 金	1,500,000			
保証金の有無 (入居一時金含む)	150,000	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(平成19年12月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	72 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂の上ファミリークリニック 平野歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは開設してもう直ぐ6年を迎え、閑静な住宅地に大型住宅のしつとりと落ちついた佇まいである。ホーム独自の理念に、地域密着型に相応しい介護方針を定め、看護師である施設長と職員の強い信頼関係が構築されて運営されている。職員は担当制を敷いており、毎月のごまめな連絡で利用者・家族との信頼関係も厚い。基本となるケアプランは、定期的に見直され、家族とも良く話し合われている。運営推進会議も2ヶ月に1回着実に開催されており、自己評価票作成にも職員全員で取り組み、改善への意欲も高い。折角企画された「地域認知症ケア相談」を軌道に乗せ、更に地域に密着したホームへの発展に期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 管理者は評価の意義を十分に理解しており、昨年の指摘事項に対して、地域密着型としての理念・現状に即した介護計画の見直し等、殆どの項目の改善が進んでいた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価票作成は、職員全員が参画しており、1Fれんげ・2Fすみれのユニット毎の特徴が表されており、評価を活かして改善に結びつけようと取り組んでいる姿が見られた。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) メンバーは、自治会長・民生委員・市関係者・包括支援センター職員・協力病院代表者・家族 運営者で組織され、2か月に1回着実に開催され、ホームの現状が報告されている。更に有意義な会にするために、入居者代表の参加・対話時間をより多く・職員アンケートによる更なる活性化策等が検討されている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記され、気楽に相談を受け付ける体制にある。四季報や毎月のお便りが出され、施設長から全体のホームでの状況や「担当職員からの一言」が添えられ、定期的及び個々に合わせて報告が行われている。また、ケアプランについては、全ての家族と一緒に話し合いが行われており、そこでの意見を運営に反映させている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、祭典の寄付にも協力している。夏祭り・秋祭り・ふれあいサロン等の情報が集まるようになり、地域行事や自主防災訓練等にも参加している。一度企画された「地域認知症ケア相談」の初志が軌道に乗ることを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創業時に作成された独自の介護理念「敬い 愛しみ その人らしく いごちの良い暮らし」があり、その後地域密着型に相応しく、介護方針「3. 地域行事に積極的に参加する」が追加されていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護理念・介護方針が、誰でも見やすい場所に掲示されており、それをケアプランに反映し、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、祭典の寄付にも協力している。夏祭り・秋祭り・ふれあいサロン等の情報が集まるようになり、地域行事や自主防災訓練等にも参加している。一度企画された「地域認知症ケア相談」が、中断されている。	○	折角の素晴らしい企画である。じっくりと腰を落ち着け、更なる地域との交流促進の一助に育て上げることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を十分に理解しており、昨年の指摘事項に対しても殆どの項目の改善が進んでいた。 今回の自己評価票作成においても、職員全員が参画していて、ユニット毎の特徴が表されており、評価を活かして改善に結びつけようと取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者の協力を得て、2ヶ月に1回着実に開催されている。更に有意義な会にするために、入居者代表の参加・対話時間をより多く・職員アンケートによる更なる活性化策等が検討されている。		

静岡県 グループホーム なの花

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口とは日常の報告・連絡・相談を行うと共に、毎月介護相談員を受け入れており、共にサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	四季報「なの花便り」で、お花見・イチゴ狩り・1階2階毎の行事・職員の紹介等が行われている。また、毎月のお便りが出され、施設長から全体のホームでの暮らし振り・最近のバイタル、そして「担当職員からの一言」が添えられ、定期的及び個々に合わせて報告が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口が明記され、気楽に相談を受け付ける体制にある。特に家族アンケートでは、ケアプランについて全員が説明を受け、一緒に話し合っており、そこでの意見を介護や運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの管理者・職員による支援が受けられるよう最大限の努力は払われているが、この1年でベテラン職員2名の寿退職・2名の新人採用があった。職員の対応のばらつきについて、家族からも多少の不安が寄せられている。	○	運営者は職員の待遇面等の配慮を行っており、お便り等で異動のお知らせはしているが、更に運営者・管理者・職員が一体となったフォローが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修については毎月テーマを決めて実施されているが、外部研修を含めた研修計画は見られなかった。	○	職員の体制も整った現在、外部研修を紹介して希望者が参加するのではなく、職員一人ひとりの経験や技量を見極め、内部・外部の研修計画を策定し、着実に実施することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣や管理者の知り合いのホームとの間で、防災訓練・夏祭り・コンサートへの参加等の交流が始まっている。更にこの輪を広めようと努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	この1年で4名の入退所者があり、入居前の見学や体験入所を行なっている。入所の日にはちや時間帯についても本人・家族と話し合い、入居時期を決めている。また、入居後しばらくの間は本人の特性を良く把握し、慣れない環境で混乱しないように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入所時のアセスメントや担当した職員のその後の観察から、利用者一人ひとりの特性を理解し、できることのお手伝いや地域の年中行事・方言等を教えられながら、共に支え合う関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとに担当職員を決め、利用者と共に寄り添う中で、利用者の心の動き・思い・希望などを汲み、そして聴き取り、本人本位の暮らしができるような支援に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族等から要望を聴き、また、アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリングを行う中で、必要に応じて主治医と相談するなどして介護計画を作成している。作成された介護計画は家族に報告し、了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン作成の流れ(毎月のケアプラン作成計画表がある)に沿って、定期的(1ヶ月～3ヶ月)あるいは利用者の状況の変化によつての随時の見直しが行われている。また、見直しにあたっては職員全員による話し合いが持たれ、最終的には担当職員が決定し、計画作成担当者が承認するなどして介護計画の共有化を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じて、通院や買い物などの送迎や付き添いを行なっている。また、家族の協力を得て、外泊、外出、外食などの支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に全員かかりつけ医をホームの協力医とすることの了解を取っているが、従来のかかりつけ医の受診も可としている。2ヶ月に1回職員が付き添い協力医の定期検診や必要に応じての往診もあり、「受診・往診連絡簿」に記録の上、家族、職員に状況報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアに当たって、かかりつけ医、家族、職員間で話し合いを行って最後の看取りをしたほか、かかりつけ医参加の下に必要なケアに関する勉強会も開催するなど、全員で方針の共有化に努めている。	○	今後のターミナルケアの指針として、この経験を活かしたマニュアル化を進め、職員共有の財産として残されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のこれまでの暮らし方・生き方を尊重しながらトイレ介助等もさりげなく行い、個々に合わせた穏やかな声かけなど、羞恥心への配慮をしている。また、個人記録はパソコンに入力するなどして個人情報の取り扱いには十分な配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおよその流れはあるが、本人の状況により柔軟に対応している。テレビをみている人、絵を描いている人、花札に興じている人、それぞれが自由に生活をエンジョイしている姿が見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓を囲んでにぎやかな談笑の場があり、利用者の嗜好や食べたいものを献立に反映させ、食事が楽しめるようにしている。また、利用者各々が好きな惣菜・調味料などを献立とは別枠で調達して食事時に供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの意向を尊重し希望に合わせている。2日に1度のペースで入浴できるようにしているが、毎日入浴する利用者もいる。希望する時間に極力浴えるよう対応しており、体調に合わせてシャワーや足浴等個別にきめ細やかな支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力量や希望に応じた仕事や役割を見出し、仕事を任せることで自信や張り合いが味わえるように、洗濯物たたみ・食器の片付け・食器拭き等を職員と共に行なっている。また、季節ごとの行事、誕生会などを開催して、日ごろの気晴らしができるような支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩に出かけて季節感を肌で感じたり、日光浴や外気浴・希望に応じて近くの商店での買い物、外食、祭り見物など戸外へ出る機会を多く作るように努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は熟知しており、利用者の気分や状態をキヤッチし見守ることで、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一回の避難訓練を行なっている他、地域の自主防災にも参加している。また、運営推進会議を通じて地域の人々から協力を得られるよう働きかけも行っている。近隣のグループホームと災害時の連携が取れるように取り組みを始めており、非常用食料や備品の備蓄も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、利用者個々の状態に合わせた量や形態で出されており、摂取状況を毎日記録しているが、水分量の摂取は、医師から指導を受けている疾患がある人に関してのみの記録にとどまっている。	○	水分摂取量は体調低下時の個別支援の基礎となることから、利用者全員に対して水分の摂取量を記録することが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間として使用している食堂兼居間は、利用者にとって不快な音や光がないよう常時気遣いがされ、清潔さが保たれている。また、壁面には行事の写真や季節感のあるものを飾るなどして、利用者が家庭的雰囲気の中で過ごせるような工夫が随所に見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの物を持ち込むなどして、それぞれ特長のある居室づくりがされている。個人生活を重視した環境の下で、利用者本人が居心地よく過ごせる支援がされている。		